

第16回薬物乱用防止教育研修会

平成19年8月18日(土)

於 国士舘大学世田谷キャンパス

青少年問題と大人の責任

前警察庁生活安全局長 竹花豊先生

- . 日本が薬物乱用に関して整備されている理由
 - 薬物の使用を犯罪としている
 - 薬物乱用者の刑務所を病院として扱う 社会復帰を願う
 - 薬物に関わる子供たちへの教育がなされている
 - 万引きはゼツタイダメ 74.8%
 - 薬物の使用はダメ 91.8%
- . 子供たちはこれまでにない危険な状況で育ってきている
 - 携帯、インターネット等で色々な情報に接する機会がある
 - 大人社会が毅然とした態度をとる必要がある
- . 学校の中で起こっている問題を学校だけで処理するのは無理
 - 問題を解決する力を養う
 - 大人社会の本気を子供たちに伝える
- . 広島の教訓
 - 大人の本気を子供たちに伝える
 - 子供たちを理解することといけないことを叱ることの大切さを両立させる
 - 暴走以外に打ち込めるものを提供する
 - 子供に関わる大人相互の不信と無関心が子供の問題の解決を困難にする
- . 暴走族対策
 - 警察と暴走族だけの問題ではない。社会に戻ってきてほしいという周りの人たちの声が排除させる。

児童生徒の薬物の意識調査と薬物乱用防止教育

文部科学省スポーツ青少年局・学校健康教育課 健康教育調査官 北垣邦彦先生

個人意識の問題

信頼出来る人とのコミュニケーション不足 核家族化、共稼ぎ、教員の多忙
他人に迷惑をかけなければ何をやっても自由だという意識

情報の問題

情報技術の発達 インターネット、携帯電話等
情報の氾濫

薬物(流通)の問題

世界的な流通の拡大
販売の巧妙化 ビデオテープのクリーナーとして販売（違法ドラッグ）
薬物の使用方法
使用方法の簡素化 吸入、服用等

学習指導要領の改訂

薬物乱用防止教育は必要だ
薬物乱用防止教育の徹底
目標 ： 薬物乱用防止教育の年 1 回以上の開催

薬物乱用に地域差が無くなっている
低年齢化

青少年の酒、タバコを阻止することが出来れば、効果的に薬物乱用を防止することが出来る
平成 12 年と 18 年の児童の意識調査で確実に薬物乱用防止教育の成果が現れている

実践報告

小学校での薬物乱用教室の課題

- ・ 時間の確保
- ・ 教材、教具の工夫（講師に保護司）
- ・ 教職員間の共通理解、教員間の連携
- ・ 継続した指導の実現

高校での薬物乱用防止教育

2 時間連続で行う

1 時間目 ： 知識

2 時間目 ： 行動

薬物 身近に降りかかった時、どの様に対応するか

アルコール、タバコ 選択出来るようになったとき、どう選択するか

交通安全教室と同じ様に薬のはなしがあってもよいのではないか

セルフメディケーション政策はあってもくすりの教育はなされていない
学校で食育ならぬ薬育を行う必要がある